

科目名	専門分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP2	DP3	DP4	DP5	
	小児看護学				担当教員	外部講師 専任(基幹)教員				
	小児看護学方法論									
履修学年	2年	履修学期	前期	単位数	2	時間数	32			
授業目標	1. 小児看護の場と看護の特徴が解る。 2. 病児の疾患別看護・経過別看護・症状別看護が解る。 3. 病児の成長発達をふまえた観察とコミュニケーション・日常生活援助を理解する。 4. 子どもの事故や外傷の看護が解る。 5. 障害のある子どもの療育支援が解る。 6. 生活に影響を及ぼす健康問題をかかえる小児の看護について理解する。									
回	学習内容				方法	担当教員				
1 2 3 4	1) 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 (1)入院、外来、在宅、災害時における子どもと家族の看護 2) 子どものアセスメント (1)アセスメントに必要な技術 ①バイタルサイン測定 (2)身体的アセスメント (3)精神的アセスメント (4)日常生活援助(清潔援助・排泄援助) 3) 子どもの事故・外傷とその看護				講義 講義 講義 講義	外部講師				
5 6 7 8 9 10	4) 看護展開 事例：疾患をもった子どもの看護 (1)川崎病「急性期にある子どもと家族の看護」 ①発熱 ②発疹 (2)小児喘息「慢性期にある子どもと家族の看護」 ①呼吸困難 ②脱水 (3)急性骨髄性白血病「終末期にある子どもと家族の看護」 ①痛み ②意識障害				講義					
11 12	5) 障がいがある子どもと家族の看護 (1)障がいを持つ小児の人権を尊重した、成長・発達を支える療育支援				講義・演習					
13	(2)「療育」として医療・看護・福祉が協働して成長発達を支えるケア				講義・演習					
14	(3)障がいをもつ小児の自立と日常生活支援の意義				講義・演習					
15	6) 健康問題をかかえる小児への看護				講義・演習					専任(基幹)教員
16	試験				試験					
評価規準 評価方法	集積状況・課題・筆記試験 100点									
テキスト および 参考文献	専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論(医学書院) 専門分野 小児看護学[2] 小児臨床看護各論(医学書院)									
履修上の 注意点										